

小豆島を代表するブランド「小豆島島鱧」（しまはも）」！

小豆島（香川県）周辺の海域では、鯛やヒラメなどの魚類やエビやカニ等の甲殻類などの漁獲量が年々減少する中、鱧は漁獲量が増えてきたのですが、鋭い歯を持つ鱧は目についたものは何でも食べる害魚で、出荷先が無かったために非常に安く取り引きされていました。そこで、平成27年



いけすの鱧

から鱧の新たな販路を探し求め、関西方面の市場や業者に直接卸すようになりました。平成28年からは、土庄町の四海漁業協同組合（穴山雅博組合長）が中心となりブランド推進協議会を発足し、小豆島島鱧を名乗るための基準（①小豆島近海で漁獲されたハモであること。②資源管理の側面から、漁獲できるのは重量が300g以上、2kg未満であること。③曳網時間が1時間程度の短時間であること。④漁獲後、温度管理された水槽で畜養したもの。）を設けてブランド化することで、新たな小豆島のブランド商品として販路拡大を目指し、地元や関西方面のイベントに参加してPRに取り組んで来ました。

平成29年からは、加工場を開設して骨切り機や急速冷凍機等を導入し、活けず・骨切り瞬間冷凍の加工を行い「小豆島島鱧」として全国発送も行っています。

から鱧の新たな販路を探し求め、関西方面の市場や業者に直接卸すようになりました。

平成28年からは、土庄町の四海漁業協同組合（穴山雅博組合長）が中心となりブランド推進協議会を発足し、小豆島島鱧を名乗るための基準（①小豆島近海で漁獲されたハモであること。②資源管理の側面から、漁獲できるのは重量が300g以上、2kg未満であること。③曳網時間が1時間程度の短時間であること。④漁獲後、温度管理された水槽で畜養したもの。）を設け



加工商品



骨切り機

また、島鱧を学校給食にも取り入れてもらい、子供達にも鱧の美味しさを伝えています。

小豆島の漁師たちは、消費者の皆様が「小豆島の鱧を食べたい・食べに行きたい」と思ってもらえるように新鮮で高品質の鱧を今後も提供してまいります。



小豆島島鱧

詳しくは、四海漁業協同組合Facebook
<https://ja-jp.facebook.com/shikaigyokyou/>

写真提供：四海漁業協同組合

「平成31年春の農作業安全確認運動」の実施及び「平成31年春の農作業安全確認運動推進会議」の開催について

毎年300件以上発生している農作業死亡事故を減少させるため、農林水産省は、3月から5月までを農作業安全対策の重点期間として、平成31年春の農作業安全確認運動を実施します。

本運動の開始に当たり、平成31年1月28日（月曜日）に、関係団体が一堂に会し、農作業安全対策の情報交換を行うとともに、運動の連携強化及び効果的な推進を図るため、平成31年春の農作業安全確認運動推進会議を開催します。

（詳しくはこちら）

<http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/sizai/190122.html>



農作業安全ステッカー

「平成30年農林水産物・食品の輸出実績」について

農林水産省は、「平成30年農林水産物・食品の輸出実績」を取りまとめました。平成30年の我が国の農林水産物・食品の輸出額は9,068億円、前年比12.4%で増加し、6年連続で増加しました。

また、参考として、上記の輸出実績に含まれない、1品目20万円以下の貨物（少額貨物）の農林水産物・食品の輸出額を推計したところ、平成30年は520.3億円、前年比12.7%の増加でした。

1. 農産物、林産物及び水産物それぞれの輸出実績は以下のとおりです。

農産物：5,661億円（対前年比+14.0%）

林産物：376億円（対前年比+6.0%）

水産物：3,031億円（対前年比+10.3%）

2. 輸出先を見ると、1位が香港、2位が中国、3位が米国でした。

詳しいデータは、当省ホームページで「農林水産物輸出入情報」として公表しています。

<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

◎「News Letter」は、原則奇数月に発行しています。

編集：中国四国農政局 香川県拠点

〒769-0019 高松市サンポート3番33号

TEL (087)883-6500(内線3513) FAX(087)883-6504 <農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>